

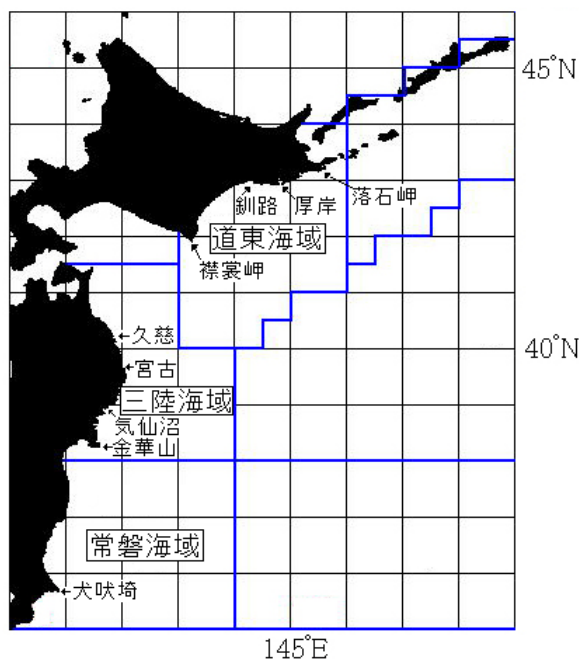
平成26年度 第6回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(2014年11月上旬～12月中旬)のポイント

来遊量

- ・ 道東海域では、11月上旬は断続的となり終漁となる。
- ・ 三陸海域では、11月上旬は高位水準であるが、減少する。
- ・ 常磐海域では、11月上旬は中位水準で増加する。



海域の名称

問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 事業二課

担当：渡邊、松尾

電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/>

独立行政法人水産総合研究センター

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

平成26年度 第6回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

1. 今後の見通し

予測期間：2014年11月上旬から12月中旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量

来遊量は減少し、11月上旬は断続的となり、終漁となる。

(2) 漁場

11月上旬は、襟裳岬沖に漁場が残る。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

来遊量は減少し、11月上旬は高位水準であるが、11月中旬は中位水準となり、11月下旬は低位水準となる。12月上旬は断続的となり、終漁となる。

(2) 漁場

11月上旬は三陸北部～南部が、11月中旬～12月上旬は三陸南部が漁場となる。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

来遊量は徐々に増加し、11月上旬～下旬は中位水準となる。11月下旬から、来遊量は減少し、12月上旬～中旬は低位水準となる。

(2) 漁場

11月上旬は、常磐北部に漁場が形成される。11月中旬に常磐南部まで漁場が広がり、11月中旬～下旬は、常磐北部～南部で漁場が形成される。12月上旬～中旬は、常磐南部に漁場が残る。

2. 予測の概要

海 域		11月上旬	11月中旬	11月下旬	12月上旬	12月中旬
道東海域	来遊量					
	動向	断続的				
	漁 場	襟裳岬沖				
三陸海域	来遊量					
	動向	高位減少	中位減少	低位減少	断続的	
	漁 場	北部～南部	南部	南部	南部	
常磐海域	来遊量					
	動向	中位増加	中位水準	中位減少	低位減少	低位減少
	漁 場	北部	北部～南部	北部～南部	南部	南部

3. 漁況の経過概要（10月中旬）

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した道東海域における来遊量の水準は、前年を上り、前旬並の中位水準であった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、期前半に来遊量は減少したが、期後半に再び増加した。

(2) 漁場

道東海域では、落石沖～釧路沖、襟裳岬沖に漁場が形成された。落石南沖～釧路南沖の30～40海里付近（13～15℃）では、小型船が多数操業し、満船となる船が多かった。12日夜と15日夜は大型船1隻が操業し、60～65トン程度漁獲した。襟裳岬北東30海里～東20海里付近（13～15℃）では、16日夜以降、大型船数隻と小型船数隻が操業した。大型船で最高110トン、平均53トン漁獲した。襟裳岬南70～110海里付近（13～16℃）では、大型船が数隻～45隻程度操業し、最高130トン、平均90トン漁獲した。

(3) 魚体

体長30～31cmモードの大型魚主体で、中型以下の魚が1～3割程度混じった。期後半には、体長25～26cmモードの中型魚主体の群もあった。大型魚の体重は130～150g台主体であった。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した三陸海域における来遊量の水準は、前年および前旬を上回り、高位水準となった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、来遊量は徐々に増加した。

(2) 漁場

三陸海域では、八戸沖～金華山沖に漁場が形成された。八戸東40～60海里～宮古北東40海里付近（13～15℃）では、大型船が1～50隻程度操業し、最高130トン、平均71トン漁獲した。宮古東20海里～女川東35海里付近（14～18℃）では、大型船が数隻操業し、最高130トン、平均24トン漁獲した。金華山東南東35海里付近（16℃）では、20日夜に大型船が8隻程度操業し、最高75トン、平均32トン漁獲した。

(3) 魚体

体長30～31cmモードの大型魚主体であり、中型以下の魚が1～3割程度混じった。大型魚の体重は140～160g台主体であった。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した常磐海域における来遊量の水準は、前年および前旬を上回ったが、低位水準であった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、期後半に来遊量は増加した。

(2) 漁場

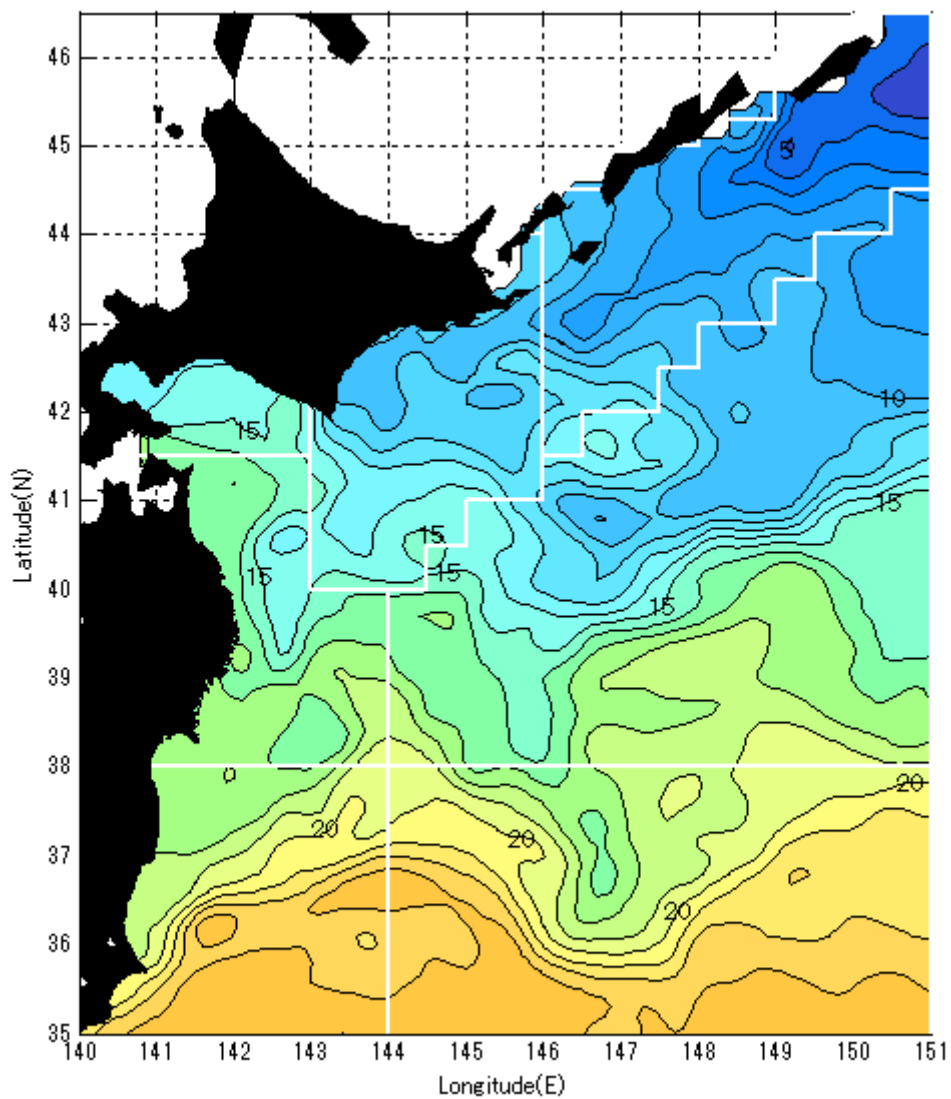
常磐海域では、金華山南沖に漁場が形成された。金華山南南東35海里付近（17℃）では、20日夜に大型船が4隻操業し、最高110トン、平均76トン漁獲した。

(3) 魚体

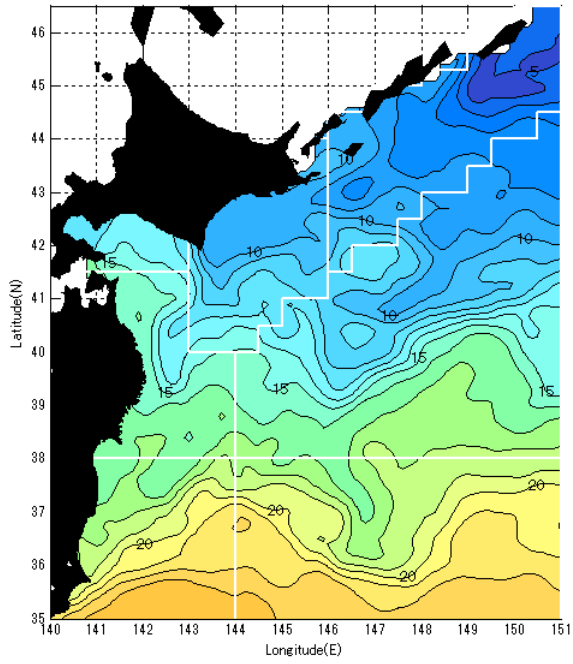
体長30～31cmモードの大型魚主体であった。

4. 予測水温分布図

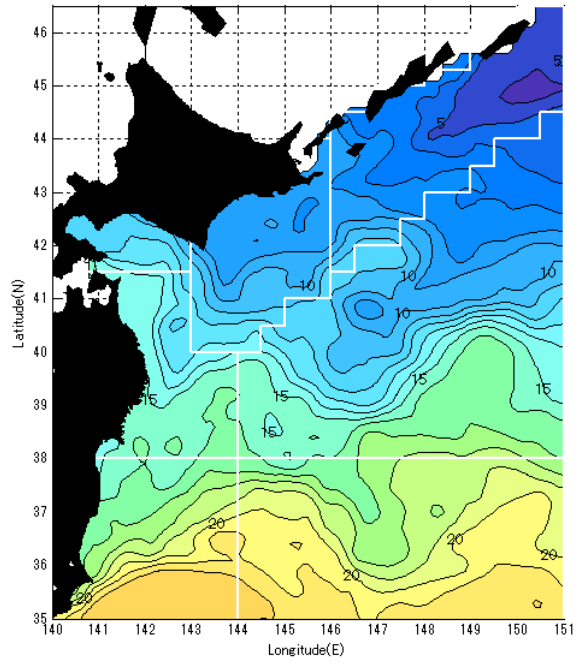
11月上旬予測表面水温分布図



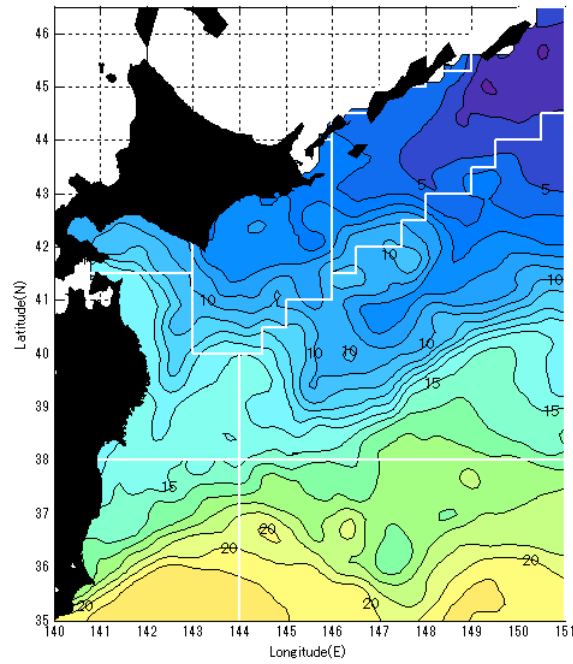
11月中旬予測表面水温分布図



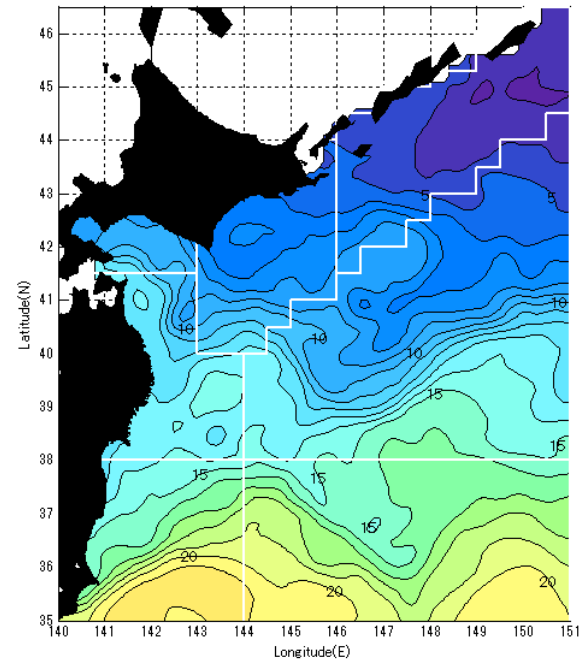
11月下旬予測表面水温分布図



12月上旬予測表面水温分布図



12月中旬予測表面水温分布図



参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産試験場</p>	<p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>独立行政法人 水産総合研究センター 東北区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター</p>
---	---